

Ipex2010 とデジタル印刷教育

国際印刷大学校長

木下 堯博

Ipex2010 (Birmingham) に参加するため、2010 年 5 月 17 日から London に入りをし、5 月 18 日から 4 日間見学した。また、産業革命の発祥地 Manchester 市や工業都市の Coventry 市の各大学で NVQ (National Vocational Qualification) などの調査を行った。

Ipex は 2002、2006 年に続き 3 回目であるが、1964 年ドイツに留学していた折、Cambridge 大学を訪問して以来、計 4 回のイギリス訪問となる。

今回の Ipex ではデジタル関連の展示が従来のアナログ方式を上回り、Ipex Daily (会期中に毎日発行される新聞) ではオフセット印刷とデジタル印刷の比較論が展開されていた。

印刷メディア系大学の展示は Leeds City College, Leicester College, University of West of England、LCC など、研究機関は PIRA, Fogra などの出展があった。

今回初めて展示をした Proskill 社はこのような大学と協力して、デジタル印刷の NVQ システムを構築した。

前回同様、会場数は 11 ホールであったが、面積的にやや減少していた。特徴的として、上海電気を中心として、中国からの出展が目立ち、中国の経済活動が景気を持続させている印象があった。韓国も「直指心体要節」(1377 年活字印刷) の版を持ち込み印刷の実演を行うと同時に、9 月 8 日から行われる KIPES 展 (Seoul, KINTEX) の宣伝をしていた。

展示の最大面積は Hewlett-Packard Company で 2870 平方メートルに T200,300 の Inkjet Web Press, Indigo7500 などを実演していた。Indigo7000 に比較し In line 検査装置があり、液体トナーで色調も安定していた。また、工場管理システムとして、展示・運転しているデジタル印刷機群をコントロールセンターで確認し、デジタル印刷の進行状況、原価計算、利益管理を瞬時に把握できるシステムも公開された。

韓国や中国では、この HP のデジタル印刷機が日本よりも多く導入されていることから、ソウルで 2010 年 9 月開催の KIPES (韓国印刷機材展) に合わせて、Dscoop Asia (HP のユーザーの国際会議) が 9 月 7 日、8 日の 2 日間、開催される。

富士フイルム(株)は Fuji Jetpress720, 大日本スクリーン製造(株)が True Press Jet SX の Inkjet 印刷機を出展し、注目された。それぞれ、印刷の実演とサンプル配布のサービスを行った。Ink Jet 方式の印刷に関しては 2009 年度トステム(株)からの委託研究で、富士フイルムの協力により、行ったが、色再現領域はオフセット印刷よりも広域であり、色彩コントロールは容易であった。

一般印刷物は、電子書籍や電子カタログ、家庭用のプリンター更には i-Pad などに移行しつつあり、需要が減少傾向にある。

これはイギリスでも同じ状況にあり、人口減少、高齢化とともに重厚長大型の印刷装置

は将来、縮小せざるを得ないであろう。

アメリカの Goss International 社（オフセット輪転機）は上海電気グループ(Mega J Print40 の出展)により、経営権を委譲することになり、会期中の5月23日の記者発表があり、それに参加した。

Heidelberg 社は今回の IpeX で二番目の展示面積（2448 平方メートル）を有し、SM CX102-5+L を中心に出展し、Short Run, Green Print, Lean manufacturing などを中心に打ち出した。KBA は Rapida 75E にて 90 分で 11Jobs をこなす実演を行った。

IpeX Daily の 2010 年 5 月 23 日号ではこれら B2 サイズの Offset と先に述べた Jet Press720 と True Press Jet SX の紙上での議論が掲載された。

デジタル印刷機は Kodak, Konica Minolta, Canon, Ricoh, Epson, Riso, Agfa, Mimaki 各社からの出展があった。これらは印刷企業の外、Skillless の観点から一般ユーザーにも導入されるケースもある。大学の出版局でも Cambridge Uni. は Canon System の更新を計り、Oxford Uni. はネット構築を行った。日本でも崇城大学（熊本市）でオフセット印刷機からデジタル印刷機に切り替えていた。このデジタル印刷教育の分野で Proskill 社（今回初出展）は Leicester 大学と協力してデジタル教育のカリキュラムを開発した。

Digital Media Production, CMS, Digital Print Production など NVQ Level 2~4 の認証を得て、新人教育や失業対策にも利用されている。このような職業資格と大学の学位の関連は全国資格フレームワーク（NQF, National Qualification Framework）で整備され、大学が学部レベルでは職業資格として NVQ Level 4 に該当させ、学習方法で選択幅を拡大させるため、QCF(Qualification & Credit Framework)制度の導入が開始された。

日本でもこのイギリスの職業訓練制度を導入し、2008 年から Job Card 制度が始まった。東京グラフィックサービス工業会では実践型人材養成システムを開始、2009 年度印刷営業、製版、DTP、印刷のカリキュラムを構築し、訓練終了後の評価シートもまとめた。2010 年 4 月から新入社員 22 名（7 社）の Off-JT、企業での OJT が 9 月まで行われる。

イギリスでは新しいデジタル印刷技術導入に伴う、教育システムは職業訓練と学校教育と連携させ、技能レベルを向上させ、国際競争力を高める政策が人材育成の基本にあることがわかった。日本でも新しくデジタル印刷教育を幅広い分野から構築して行くことが緊急課題であろう。詳細は 2010 年 6 月 12 日、九州印刷機材展で第 1 報の報告を予定している。この発表内容は 6 月更新の HP www.media-igu.com に掲載している。

参考文献

- (1) 木下堯博 ; PreIpeX2010 と最新印刷メディア情報 (第 1 報 ~ 第 3 報) 2010 4 月 20 日 ~ 5 月 17 日
- (2) IpeX2010 Event Catalogue (282P) 18-25 May 2010
- (3) InterGraf; Europe and the Printing Industry Statistics (2009)
- (4) F. Romano; The Future of Print in 21st Century (2010 5 18)
- (5) Leicester College; Employers' Guide to Training - Print & media(2010-5-20)

(Received 10 June 2010)